

令和5年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

No.	申請高校・大学名	新規	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名 (教員名)	参加予定 生徒・ 学生数	協働する 市民活動団体名	主な活動目的・活動内容	活動期間及び 報告会予定日	活動内容(分界別)					
										高齢者	子ども	障害者	防災	その他	
1	兵庫県立 尼崎小田高等学校		あまおだ「かんご」	『地域社会貢献活動—高校生にできること—研究活動による政策提言とイベントの実施』『防災・減災—災害時要配慮者の支援、特に生涯を持つ人との関わり方、高齢者支え合い・見守り事業、災害時のトイレ対策、フレイル予防と災害』『在宅療養・看取りの地域啓発活動・高齢者の孤立対策、フレイル予防』『子どもの生きづらさを解消するには—子どもの貧困、子どもの虐待、小児・AYA世代のがん、障がい・難病の子ども、医療的ケア児、ヤングケアラー』『人権擁護・差別解消—感染症と差別、デートDV、性暴力、子どもの権利』など	福田 秀志	31人	小田地区民生児童員協議会	・「要支援者・見守りささえあい事業」において、民生児童委員に協力を得ながら地域の要支援者の見守り活動を行った。 ・尼崎市医療・介護連携協議会等の協力により、防災食レシピ、フレイル予防体操の開発をすることができた。また、おだ夏祭り、尼崎市民祭り、あまおだ減災フェス、おだ冬祭りなどを通して、減災、在宅療養の必要性について、市民に啓発することができた。 ・園田地区民生・児童委員高齢者部会、尼崎市薬剤師会、在宅療養ワークショップなどで、若年性認知症とアドバンス・ケア・プランニングを柱とした劇の上映、もしばなゲーム、なんじゃもんじゃゲームなどを披露し、多職種連携による在宅療養の可能性について市民啓発を実施できた。 ・「子どもの居場所作り」班では、おだ夏祭り、尼崎市民祭り、アミシング潮江商店街「楽市・楽座」、おだ冬祭りで親子が楽しめる出し物を実施した。また、11月から月に2回、金楽寺小学校の校区で学習支援を実施、子どもたちは「学習」というより、「ほっとできる空間」を求めて参加されている。 ・性暴力班は、性暴力を通して、ジェンダー平等、包括的性教育の必要性を導き出し、高校生にできる「包括的性教育」の内容について、「小田祭り」で動画、パンフレットで報告を行った。 これらの活動はすべて、「地域コミュニティづくり」=人と人との繋がり、地域の活性化が目的であるが、高校生が地域で活動することで、その目標は達成できたと考えている。	・活動期間 R5.4~R6.3 ・報告会 R6.1.27 小田南生涯学習P R6.1.28 小田南生涯学習P R6.2.3 小田高校 R6.3.26 小田南生涯学習P	○	○		○	○	
2			国際探求「members of a society」	安心して暮らせる環境づくり (1)難民支援活動及び啓発 (2)尼崎市在住の外国人支援および交流 (3)災害時の多言語対応(非常時における社会的弱者への支援)	出田 享佑	16人	尼崎市国際交流協会	外国人が安心して暮らせるまちづくりを目標に、外国人への支援が行き届くように交流等を行った。まず、外国人の方々とのコミュニケーションを取る際にやさしい日本語がどのようなものかを学んだ。次に、地域の防災士の方々と外国人向けのイベントを開催し、防災食・防災クイズなどを外国人の方々と一緒に楽しみ、尼崎市民まつりでは、ウクライナからの避難民家族を招待し、まつりを案内したりインタビューを行った。また、市民まつりの中で日本と他国を比較しながら、ジェスチャークイズを行い、文化間の違いを市民の方々知ってもらった。様々な機会を通して外国人と交流することで、外国人が身近な存在になるとともに、日本語が堪能でないという立場に立って、物事を考える習慣が付き、外国人と地域をつなぐ活動とした。	・活動期間 R5.4~R6.3 ・報告会 R5.12.16 小田南生涯学習P R6.1.31 小田南生涯学習P R6.2.3 小田高校					○	○
3			「あまおだ地域応援隊」	地域コミュニティづくり-「高齢者の生きがい作り」「子育て世代と共に作る未来作り」「子どもの居場所づくり」「災害時の高校生にできること」の4つの取り組み	難波 滋	85人	杭瀬小学校地域学校協働本部	地域の清掃活動や防災イベント、交通安全運動、高齢者を対象としたスマホ教室等、様々な活動を通して、地域住民と交流することでコミュニケーション能力が高まりるとともに、関係性も深まった。また、「あまおだふゆまつり」では、生徒が企画した縁日や運動会、インクルーシブ公園の広報活動、コープこうべとのコラボによる豚汁づくりとエンカル商品の販売等を行い世代間交流事業が活発に行われた。	・活動期間 R5.5~R5.3 ・報告会 R5.12.16 小田南生涯学習P R6.1.31、R6.2.3 小田高校	○	○			○	
4	関西大学		近藤誠司研究室	尼崎市における「防災福祉力」向上プロジェクト	近藤 誠司	29人	尼崎市難病患者団体連絡協議会	・難病患者団体連絡協議会の要配慮者災害シンポジウムを11月12日(日)に実施した。障害者福祉や高齢者福祉の立場から、防災と福祉の領域に関する取り組み事例などを紹介していただき、参加者は情報交換や交流を行うことができた。後半のパネルディスカッションでは、大学生も登壇し発表した。また、パネルディスカッションに先駆けて、障害当事者家庭に防災に関する取組や課題などを学生がヒアリング調査を実施した。さらに、難病連主催の医療相談会の際に、防災に関する簡易アンケートを実施し、72人から回答を得て分析したのち、シンポジウムで紹介した。 ・「あま咲き放送局」において、10分間の防災と福祉に関するトーク番組シリーズを開発し、毎週木曜日の朝10時頃に「あま咲き防災ラボ」というコーナータイトルで放送した。 ・尼崎市民祭りでは、児童のための「防災フリスビー」コーナーと、保護者のための「おためし段ボールベッド」コーナーを実施した。当日は、大盛況で、いずれも100人程度の参加があった。段ボールベッド寝心地をアンケートし、その結果を「あま咲き防災ラボ」で放送した。 ・昨年度に実施した尼難連シンポジウムが縁となりつながった特別養護老人ホームの防災訓練を視察した。	・活動期間:R5.6~R5.11 ・報告会:R5.11.12 身体障害者福祉会館			○	○	○	
5	兵庫県立大学		防災リーダー教育プログラム	地域住民、大学と高校が連携した地域防災力向上のための実践的防災・減災活動	浦川 豪	28人	尼崎コスモシティ自治会	尼崎コスモシティ自治会住民と連携し、ファッションを通じた地域防災活動にける協力関係の構築を目指した。勉強会、ワークショップ、ファッションショーのステップを設計し、実施した。勉強会では、ファッションを通じた本取組についての意義を共有するとともに、自治会が立地する地域のリスクや防災対策について説明し、住民の防災意識向上の啓発等を行った。ワークショップでは、チームごとに伝えたいイメージのコンセプト作成を行うとともにTシャツのデザインを行った。ファッションショーでは、地域防災力向上につながる取組であることを製作物を身に着け発信した。 ・尼崎市の小学生に対して、「おうちの防災ポイント探し」出前授業を実施した。	・活動期間:R5.8~R6.3 ・報告会:R6.3.3 中央北生涯学習P					○	
6	兵庫県立 阪神特別支援学校 分教室		WORK(喫茶サービス)	喫茶サービス活動を通じた地域活動への参加・交流	村田 敦子	29人	時友団地連合会	・障害のある生徒が、喫茶サービス活動を通じて地域との交流を深め、接客技能と社会性の向上を図り、自己効用感、就労意欲等を高めることで地域福祉活動を担う人材を育成すること等を目的に、市営時友団地の集会所で入居者等を対象とした月2~4回程度の「ふれあい喫茶」を実施した。喫茶活動では、地域のコミュニティの場として、TARO COFFEEの5周年記念イベントでは団地の方々協力して、住民の方々がつくった作品展示を行い好評を博した。なお、喫茶活動は、住民同士や生徒と住民間でゆるやかな見守りの場とし、地域住民にとっての安心につなげることを目標としている。 ・地域のお祭り「武庫まつり」ではテイクアウトのコーヒーの提供を行い、地域の方々に生徒の活動を知っていたら嬉しかった。	・活動期間 R5.5~R6.2 ・報告会 R6.1.30 市営時友団地	○			○	○	○
7	園田学園女子大学	○	山崎ゼミ	運動や遊びを通じて行う子どもの見守り・ささえあい活動	山崎 雅史	5人	社会福祉法人いきいきのびのび	立花地区の幼児や児童と同地区内に立地する園田学園女子大学に通う学生が、運動や遊びを通して交流することで、子どもの居場所づくりの活性化を図った。具体的には、何度も地域総合センター上ノ島へ足を運び、利用している子どもの姿を見、そして子どもと関わることで、学校以外での子どもの居場所としてのセンターの必要性を感じ取った。また、学生企画をセンター事業に位置付け、イベント実施毎に活動内容等を検討したことにより、子どもが楽しく遊ぶ姿や満足している姿が見られた。	・活動期間 R5.4~R5.2 ・報告会 R6.2.2 園田学園女子大学				○		
8	兵庫県立 尼崎西高等学校		地域貢献グループ	地域貢献活動	本間 隆志	30人	大庄元気むら	講演会、地域清掃、保育体験等の地域で開催される交流会やイベントの参加を通して、地域住民が高校生に何を求めているのかという視点で話し合いを重ね、コミュニケーションを深めるとともに、尼崎西高校の魅力を発信することができた。また、当日のイベントの参加だけではなく、地域連携の企画・運営に自ら進んで参加し、事業を実施したことで目標を達成し自己肯定感が grew。	・活動期間 R5.5~R6.3 ・報告会 R6.3.5 大庄元気むら	○					○
9	兵庫県立 尼崎北高等学校		芸術鑑賞部	地球・地域とつながる共生ライブ(見せよう!音楽の力 編)	吉田 英一	76人	うさぎ屋 あまがさき環境 オープンカレッジ	地域イベントやエコあまフェスタ、尼崎市民まつり、地域清掃への参画、子ども食堂との交流、子どもライブや工作教室等、様々な課外活動を経験することにより、世代間の文化の理解や地域での「共生」を実感するとともに、イベント企画力や運営力がつき「問題解決能力の強化」につながった。また、頼まれたこと、思いついたことなど、何でもやってみることで視野が広がり、今まで学校から地域を見てきたことが、地域の中での学校の存在を考えるようになった。さらに、幼児から高齢者まで、いろいろな人と関わることで、自分たちの世代が社会に対してできること、大人になって役に立てることなど、様々な世代が社会でどのように支え合っているか、意識変容が見られた。	・活動期間 R5.4~R6.3 ・報告会 R6.3.21 尼崎北高校	○	○				○

令和5年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

No.	申請高校・大学名	新規	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名 (教員名)	参加予定 生徒・ 学生数	協働する 市民活動団体名	主な活動目的・活動内容	活動期間及び 報告会予定日	活動内容(分野別)				
										高齢者	子ども	障害者	防災	その他
10	兵庫県立 尼崎北高等学校	○	チームEOGとアルメリア	みんなで「環境」について考えよう	四郎園 千華子	80人	塚口西住宅福祉協会 武庫川髭の渡し花咲き会、 あまがさき環境オープンカレッジ	・自治会活動への理解促進に向けて、地域清掃を通して交流するとともに、地域住民が抱える課題を知ることにもつながった。「ポイ捨ての多くみられる場所」へは、小学生に通学路でのポイ捨ての多い場所を調べ、そのことによりさらに地域への関心を高めることができた。 ・社会貢献活動の一環としてコスモス園づくりに参加し、協働先やボランティアの方々と一緒に整地や種まき、ゴミ拾いを行った。 ・多世代が集う「エコあまフェスタ」に参加し、自分たちの作ったカードゲームで人と環境について興味もってもらえる機会を持った。参加した市民の方々に楽しんでもらえた事、またアドバイスからカードを改良し小学生と交流したことで、コミュニケーション力や児童への伝え方を学んだ。	・活動期間 R5.4～R6.3 ・報告会 R6.3.6 尼崎北小学校	○				○
11			美味しい漢字教室	尼崎市の子ども食堂とアジアをつなぐカレーフェス	吉井 美奈子	35人	モコモコ倶楽部	・子ども食堂の子どもたちと学生との交流を通して、子どもたちが食文化に関心を持ってもらえるよう活動に取り組んだ。手法としては、尼崎市内のスパイスカレー店へヒアリング調査に行き、子ども向けのスパイスカレー等について調査し、これらを基にレシピの提案・試行を行った。子ども食堂のスタッフの方々と一緒に調理を行い、その中から子どもたちにとってみたいスパイスカレーを決めてもらう等の交流を行った。 ・これらの結果から「あまがさきスパイスカレーマップ」を作成し、ヒアリングに協力してくださったお店のを掲載し、尼崎市民祭り等のイベントで配付するとともに、子ども食堂の取組紹介を行った。	・活動期間 R5.4～R6.3 ・報告会 R6.2.14 武庫川女子大学とZOOM併用		○			○
12	武庫川女子大学	○	福祉ボランティアサークル	防災プロジェクト: 人と人つながり事業	大岡 由佳	34人	一般社団法人TICC 尼崎市保護司会	・被災のトラウマ支援を行ってきた地域機関とともに、災害を自分事としてとらえることができる市民を増やすことを目標として「人々のトラウマから支援事業を考える」をテーマに、保護司会、TICCとともに、社会的孤立を解決するためのヒントに気付くことができるコミュニティコーピング体験会を皮切りに、地域の防災意識や地域で展開したい活動について考える機会を持った。 ・一般社団法人おいしい防災塾の学生アンバサダーの永久認定を受けた学生が、地域の子育て世代を対象にした防災お菓子ポシェットづくりを開催した。開催にあたり、当日の資料作成、プレゼンの練習、子どもの支援団体が集う企画に広報に出向いたり等、今まで行ったことがない活動を展開した。開催当日は、16名の子どもたちとその保護者たちが防災について考えてもらう機会となった。	・活動期間 R5.9～R5.12 ・報告会 R5.12.21 武庫川女子大学	○	○		○	
13			児童文化研究会	子どもたちへ防災理解を広めるプロジェクト	椋田 善之	32人	紙芝居サークルどんぐりの会	子育て世代への防災意識を高めるための取り組みとして、ストーリー作成からキャラクターの案出しまで学生が考え、オリジナルの防災紙芝居を作成した。作成にあたり、尼崎市は海拔0メートルの地域が多くあるということもあり、テーマを「津波」にして内容を考えタイトルは「ゆめでよかった」とした。今後は、地域イベントや学内での「子どもひろば」開催時に、絵本の読み聞かせを行っていく予定としている。	・活動期間 R5.5～R6.3 ・報告会 R6.3.30 関西国際大学		○		○	
14			福祉学専攻インターシッブ	地域住民の安全・安心なまちづくりプロジェクト	尾崎 慶太	29人	潮江社会福祉連絡協議会 竹谷社会福祉連絡協議会 三和本通商店街振興組合	・3年生は、防災学習に取り組むなかで、避難行動要支援の当事者が防災等に関してどのような思いを抱いているのかに着目し、当事者団体へのインタビューを実施した。インタビューから得られたデータを分析しつつ、引き続き地域活動を行いながら、市と避難行動要支援者のリーフレット作成を行った。また、大庄元気むらで防災サロンを企画実施し、地域への貢献活動を継続的に行った。 ・2年生は、高齢者、障害者、子どものチームに分かれ活動を行った。高齢者チームでは、潮江・竹谷の地域住民の協力のもと、高齢者の見守り活動や地域のサロン活動・百歳体操に定期的に参加し、そこに参加する高齢者と交流を図った。障害者チームは、社会福祉法人福成会サポートセンターまつばの協力のもと、事業所訪問や地域での物販活動へのボランティアを通して障害者と交流した。子どもチームは、三和本通商店街にあるさんとしよを拠点に、図書係をしながら地域の子育て世代と交流を図った。そこで得た情報から、夏休みの子どもの宿題サポート企画や放課後の子育て広場を企画運営し、多くの子どもたちに利用してもらった。	・活動期間 R5.6～R6.1 ・報告会 R6.1.30 関西国際大学	○	○	○	○	
15	関西国際大学		地域防災ボランティアサークル「ちーぼ」	地域防災×地域交流プロジェクト	岩本 裕子	21人	潮江社会福祉連絡協議会	・「災害ボランティアセンターマッチングシュミレーションゲーム」を地域イベント等でも実施できるように、学内で学生対象にて開催し、災害ボランティアセンターに関する知見を深め、進行等運営方法を練習した。 ・地域の防災力向上と地域コミュニティ形成の促進を目的に、日本赤十字社合同救護訓練・オープンキャンパスでの避難所運営ゲームHUGの開催・尼崎市民まつりや地域の商店街での出店等を実施した。 ・また、学生が石川県へ被災地支援に赴いた経験を連携先とディスカッションしたことから、住民の被災経験や尼崎市の災害想定の話に発展し避難支援方法について考える機会となった。	・活動期間 R5.5～R6.3 ・報告会 R6.3.30 関西国際大学	○	○		○	
16			つくるみるプロジェクト	季節を感じる街づくり Happy・Smile プロジェクト	太西 洋史	28人	アミシング潮江商店街振興組合	・アミシング潮江商店街振興組合に参加しているホテルヴィスキオ尼崎1階のショーウィンドウを季節ごとにディスプレイし、通りを歩く方々にお楽しみいただけるよう、「お話」をテーマに四季を楽しむこと、自然を大切にすることなどを盛り込み作成した。 ・商店街からの要請を受け、夏まつり、ハロウィンなどのイベントへの参加や飾りつけを行い、若い世代や子ども達が親しみやすい横断幕のデザインやSNSに活用できるようなフォトスポットの提案・作成を行い、イベントの活性化につなげた。特にハロウィンイベントでは、子ども達が商店街の大人と交流できる機会となるよう模擬店やフェイスペイントなどを行った。	・活動期間 R5.6～R6.3 ・報告会 R6.3.30 関西国際大学		○			○
17			キッズレポリューション	子どもが主役の地域を創る キッズレポリューション	大平 誠也	27人	NPO法人 ASK	尼崎市小田南生涯学習プラザを中心に、地域の子どもたちを対象に行われるイベント運営に積極的に関わった。イベントの中で協働先のNPO法人ASKと連携し、子ども向けのイベントを行う中で、地域の子ども会や高校などと連携・交流し、「みんなで打ち水」、「尼崎子ども食堂ネットワーク交流会」、「尼崎市民まつり」、「保育ボランティア」、「バラスポーツ ポッチャで遊ぼう」といった子ども向けイベントの企画・運営を行った。	・活動期間 R5.5～R6.3 ・報告会 R6.3.30 関西国際大学		○			○
18	尼崎市立 尼崎双星高等学校	○	商業学科課題研究 普通科情報科 電気情報科課題研究 宇宙科学研究会	「高校生が小学生にロボットプログラミングを教えるり レー型オリジナル体験学習「ロボメイツ」」、「尼崎市の プログラミング教育の地域連携・高大連携」、「工業版 STEAM教育」～3つの取組～	福井 厚輔 猪飼 涼介 櫻木 嘉典	241人	株式会社エアグラウンド 園田学園女子大学 授業サポーターグループ 株式会社ニューテック	地域でささえあいの意識を醸成するため「ロボメイツ」「プログラミング」「環境やエネルギー問題」等をテーマに地域住民が集う場づくりや多世代間交流の実践を行った。 「ロボメイツ」「プログラミング」では、地域の小学校へ赴き、授業を行う中で、高校生から小学生と教えをつないでいくルー型体験学習の場とするため、「人に教えること」を念頭に、操作を練習するほか、小学生向けに伝える手段や言葉、演出、体験内容を考え、台本を練るなど工夫を重ねた結果、多くの小学生からわかりやすかったと興味を持ってもらうことができた。この出前授業を通じて学習意欲が飛躍的に向上し、地域活動に対するやりがいを感じるようになるようになった。 「環境やエネルギー問題」では、夏休み期間中に小中学生を対象に「尼崎ロケットキャンプ」を開催し、オリジナルモデルロケット等の製作を行った。また、製作したモデルロケットの飛行実験を通して、参加者同士や高校生との交流を深めることができた。	・活動期間 R5.7～R6.2 ・報告会 R6.2.1 双星高校		○			○
19	兵庫県立 武庫荘総合高等学校	○	むこっ子防災キャラバン	武庫総みんなの防災ポトル(MCMBB)	星野 涼子	11人	イーライフサポーター 武庫第11社会福祉連絡協議会	生徒発案の「防災ポトル」をツールとして、地域のイベントなどでの子ども向けワークショップを実施したり、協働先での活動時に配布したりと、防災を考えるきっかけとして、防災ポトルを広めることができた。また、ハザードマップについて知りたいという生徒の意見から、地域の避難訓練に参加させてもらい、防災マップ更新のためのまち歩きに参加することができ、防災意識を高めることができた。活動と一緒に地域住民からは、「高校生が活動することで、子どもや家族連れ、高齢者の方に興味を持ってもらって、楽しく伝えることができる」と、高校生が防災を発信する意義についての意見をいただいた。	・活動期間 R5.6～R6.3 ・報告会 R5.12.17 オンライン R6.2.2 園田学園女子大学 R6.2.3 武庫荘総合高校 R6.3.1 武庫西生涯学習P	○	○		○	
	11校		19グループ			867人	28団体			10	14	3	10	11